

市民公開シンポジウム「地球温暖化 ― 科学者からのメッセージ」の開催

■ 開催趣旨

人口増加、エネルギー消費の拡大等に伴う地球温暖化等、人為起原の地球環境の問題は、21世紀の今、明らかに顕在化しており、生物圏と人間社会へ大きな影響を与え始めている。その解決には、未曾有の気候変化の監視、それを防ぐための対策と社会構造の変革、そして持続的社会の規範を支える教育等の分野の総合的な対策を推進しなければならない。本年7月に開催されるG8サミット（北海道洞爺湖）でもこのような全球的環境問題への抜本的対策が重要課題の一つになっている。日本学術会議では、「地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会」において、地球温暖化等の地球環境問題について検討しており、その一環として、関係機関と協力して一般公開シンポジウムを開催し、市民とともに、大きな社会的な関心を呼んでいるこの問題について考える。

■ 主催：日本学術会議、北海道大学

■ 後援（予定）：文部科学省、環境省、日本地球惑星科学連合、日本気象学会

■ 特別協力：朝日新聞社

■ 日時：平成20年6月25日（水）13:30～16:30

■ 会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

■ プログラム（予定）

13:30 開会

総合司会 中島映至（東京大学気候システム研究センター、センター長・教授、日本学術会議連携会員）

開会挨拶 佐伯 浩（北海道大学総長）

入倉孝次郎（日本学術会議第三部会員、地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会委員長）

13:40 「日本の科学コミュニティーから最前線報告」

1. 気候変化の科学-現状と将来予測（15分）

江守正多（国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長、日本学術会議特任連携会員）

2. 温暖化のリスク対策-影響評価と適応策（15分）

本田 靖（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授、日本学術会議特任連携会員）

3. 地球温暖化対策-基本的考え方（15分）

西條辰義（大阪大学社会経済研究所教授、日本学術会議連携会員）

4. 適応と緩和——社会科学の立場から（15 分）

吉田文和（北海道大学公共政策学連携研究部教授）

[休憩]10 分

15:00 パネルディスカッション「地球温暖化 今何をすべきか」

モデレータ：竹内敬二（朝日新聞編集委員）

パネリスト：

- ・ Susan Solomon （IPCC 報告書 WG1 共同代表、米国海洋大気局）
- ・ Zou Ji（中国人民大学環境学院副院長）
- ・ 山地憲治（東京大学大学院工学系研究科教授、日本学術会議第三部会員）
- ・ 池田元美（北海道大学地球環境科学研究所教授）
- ・ 中島映至（東京大学気候システム研究センター、センター長・教授、日本学術会議連携会員）

16:25 閉会挨拶 本堂武夫（北海道大学副学長）

16:30 閉会

■ お問い合わせ先

日本学術会議事務局企画課情報係（公開講演会担当）

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

電話：03-3403-6295／FAX：03-3403-6224

電子メール：sympo@scj.go.jp

以上